## 1P074 アルキル/オリゴオキシエチレン系トリブロック化合物の 超高圧赤外スペクトル

(広島大院理) 〇萩原辰徳, 福原幸一, 江幡孝之

【序】オキシエチレン(OE)鎖(-OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>-)は結晶状態において通常ヘリカル構造をとるが, アルキル/オキシエチレン/アルキルトリブロック化合物 H(CH<sub>2</sub>)<sub>n</sub>(OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>)<sub>m</sub>O(CH<sub>2</sub>)<sub>n</sub>'H (C<sub>n</sub>E<sub>m</sub>C<sub>n</sub>'と略) では結晶状態においてブロック鎖長により多様なコンホメーション多形が発 現し,総アルキルブロック長が OE ブロック長より長い場合には OE 鎖は平面ジグザグ構造を とる。これは平面アルキルブロックにより形成される結晶格子に OE ブロックが平面構造をとる ことで適合化し, アルキル鎖の凝集力により安定化されるためと説明できる。C<sub>n</sub>E<sub>m</sub>C<sub>n</sub>'の多形 発現はブロック間の結晶化競合と考えられるため、高圧力の印加による加圧結晶化は分子

間力のコンホメーション多形に及 ぼす影響を調べる上で興味深い。 本研究では対称 C<sub>6</sub>E<sub>m</sub>C<sub>6</sub> 同族体 の圧力誘起結晶化を高圧赤外 分光法により測定し, 圧力が分 子コンホメーションやパッキング に及ぼす効果を調べた。

【実験】 $C_6E_mC_6$  ( $m = 1 \sim 7$ )は当 研究室で合成し, 99.5 %以上の 純度に精製した。超高圧赤外ス ペクトルはダイヤモンドアンビル セル(DAC)を用いて 0.1 ~ 4.0 GPa の圧力を印加し, 室温で測 定した。ガスケットには厚さ 0.1 mm の Inconel, 圧力媒体には BaF<sub>2</sub>を用い, 圧力の測定にはル ビー蛍光の圧力シフトを利用した。 固体状態のコンホメーションは赤 外スペクトルの基準振動解析に より決定した。

【結果と考察】 $C_6E_mC_6$  は低温結 晶状態において鎖長や温度履 歴により図1に示すような分子形 をとる。アルキル鎖が OE 鎖に対 して長い $C_6E_1C_6 \sim C_6E_4C_6$ の場合, OE 鎖が平面構造に変化し,分 子全体が伸びた $\gamma$ 形をとる。一方 アルキル鎖が相対的に短い  $C_6E_6C_6, C_6E_7C_6$ の場合は OE 部



図2 C<sub>6</sub>E<sub>5</sub>C<sub>6</sub>の高圧赤外スペクトル

分がヘリックスとなり、 $\beta$ 形をとる。 C<sub>6</sub>E<sub>5</sub>C<sub>6</sub>では anneal の有無により  $\gamma$ 形と $\beta$ 形のコンホメーション多形 が認められる。

図2に C<sub>6</sub>E<sub>5</sub>C<sub>6</sub>の高圧赤外スペ クトルを示す。図の最上に比較 のために低温結晶相(γ形)のス ペクトルを示した。C6E5C6 は加圧 に伴い約 0.6GPa でスペクトルが 変化し,結晶化することがわかる。 OE 鎖の平面ジグザグ構造に特 徴的な●で示したバンドなど,ス ペクトルパターンが低温結晶相 のものと類似していることから, 高圧結晶化においても C<sub>6</sub>E<sub>5</sub>C<sub>6</sub> はγ形のコンホメーションをとるこ とが明らかになった。さらに圧力 を増加させると約 3.2 GPa でこの スペクトルパターンが変化し,○ で示したシャープなピークが出 現する。これは新たな超高圧結 晶相への固相転移を示唆してい る。加圧による同様なスペクトル 変化は C<sub>6</sub>E<sub>1</sub>C<sub>6</sub> ~ C<sub>6</sub>E<sub>5</sub>C<sub>6</sub> につい ても観測された。C<sub>6</sub>E<sub>1</sub>C<sub>6</sub>~ C<sub>6</sub>E<sub>5</sub>C<sub>6</sub>における液相からの結晶 化圧力は約0.6 GPaでほぼ一定 であり,明確な鎖長依存性は認 められなかった。



図3にC<sub>6</sub>E<sub>7</sub>C<sub>6</sub>の赤外スペクトル

<sup>a)</sup> annealed <sup>b)</sup> unannealed <sup>c)</sup> 2 GPa 以下

γ

γ

γ

β

β

の圧力依存性を示す。 $C_6E_7C_6$ のスペクトルは $C_6E_1C_6 \sim C_6E_5C_6$ に比べ圧力変化が小さいが, 約 0.8 GPa で 750 cm<sup>-1</sup>などのバンドがシャープになり結晶化が確認された。このスペクトルは 低温結晶における $\beta$ 形のパターンと対応している。約 3 GPa 以上の圧力ではスペクトルが全 体的にブロードになり、液体状態のスペクトルパターンに類似してくる。したがってこの圧力 以上では結晶格子が崩れアモルファス状態になっていると考えられる。 $C_6E_6C_6$ についても同 様のスペクトル変化がみられ、結晶化圧力はいずれも約 0.80 GPa 程度であることがわかっ た。

高圧結晶相の

γ

γ

表1に低温結晶相と高圧結晶相における  $C_6E_mC_6$ の分子形をまとめた。このように  $C_6E_mC_6$ のシリーズにおいては、分子形の鎖長依存性に関しては低温結晶相と高圧結晶相との間で 類似した結果が得られた。低温結晶相でみられた  $C_6E_5C_6$ のコンホメーション多形は高圧結 晶化では認められず、 $\gamma$ 形のみが発現した。